



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第60回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

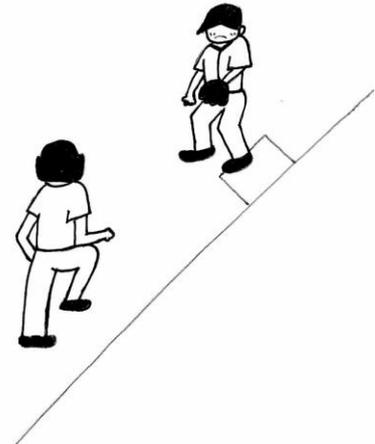
グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

ルール編 走者の守備妨害、体当たり

本塁上での走者の守備妨害に遭遇することは減っていますが、相変わらず一塁線への犠牲バントの後、打者走者が一塁へ向かう後半を走る際、内野内に膨らんで走るケースがしばしば見受けられます。また、本塁上のいわゆる「ブロック行為の禁止」については第3回に掲載していますが、アマチュア内規の改正(2013年)もありましたので、改めて解説します。

先月は、捕手の「ブロック行為の禁止」を紹介しましたが、一方で走者が守備側を妨害する行為も残念ながら散見されます。昨年(2012年)の日本シリーズの幕切れが、打者走者の守備妨害で終わったことは記憶に新しいことと思います。特に、一塁線への犠牲バントをした打者走者が一塁への後半を走る際にスリーフットライン内を走らず、内野内に膨らんで走るケースがあります。こうした事例に遭遇した時には、**球審は当該選手をスリーフットラインまで誘導して注意し、更にベンチ内の指導者の方にも再発防止を要請しています。**

また、「2012年の18U世界選手権」で発生した捕手への体当たりを踏まえ、2013年にアマチュア内規が改正されました。改めて、適用ルール、アマチュア内規を紹介するので、厳にこうしたプレイをせぬよう再掲します。



【走者の走塁妨害:公認野球規則6・05(k)】

一塁に対する守備が行われているとき、本・一塁間の後半を走るに際して、打者がスリーフットラインの外側(向かって右側)またはファウルラインの内側(向かって左側)を走って、一塁への送球を捕えようとする野手の動作を妨げたと審判員が認めた場合、**この際は、ボールデッド**となる。ただし、打球を処理する野手を避けるためにスリーフットラインの外側(向かって右側)またはファウルラインの内側(向かって左側)を走るとは差し支えない。「原注」スリーフットラインを示すラインは、そのレーンの一部であり、打者走者は**両足をスリーフットラインの中もしくはスリーフットラインのライン上に置かなければならない。**

【走者の体当たり:アマチュア内規⑦(抜粋)】

本規則の趣旨は、フェアプレイの精神に則り、プレーヤーの安全を確保するため、攻撃側のプレーヤーが野手の落球を誘おうとして、あるいは触塁しようとして、意図的に野手に体当たりあるいは乱暴に接触することを禁止するものである。

1. タッグプレイのとき、野手がボールを明らかに保持している場合、走者は(たとえ走路上であっても)野手を避ける、あるいは減速するなどして野手との接触を回避しなければならない。審判員は、

- 1) 野手との接触が避けられた
- 2) 走者は野手の落球を誘おうとしていた
- 3) 野手の落球を誘うため乱暴に接触した

と審判員が判断すれば、その行為は故意とみなされ、**たとえ野手はその接触によって落球しても、走者にはアウトが宣告される。**ただちにボールデッドとなり、すべての他の走者は妨害発生時に占有していた塁に戻る。なお、**走者の行為が極めて悪質な場合は、走者は試合から除かれる場合もある。**